

## SBIインシュアランスグループ株式会社

### 業績に関するFAQ（2024年2月）

#### 関連資料

1. 2024年3月期第3四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）（2024年2月7日）
2. 2024年3月期第3四半期決算説明資料（2024年2月7日）

当社の業績に関するFAQを以下に記載いたしましたので、必要に応じてご参照いただきたく、お願いいたします。直前四半期以前の業績に関するFAQにつきましては、当社ホームページの[「よくあるご質問」](#)ページでご覧いただけます。

---

**Q1： 配当予想を修正した理由を教えてください。**

A1： 事業の順調な成長に加え、2023年9月27日に当社は東証グロース市場への上場から5周年を迎えたことから、当期末における配当は、普通配当15円に上場5周年の記念配当3円をあわせて、1株当たり18円といたしました。

---

**Q2： 第3四半期の時点で、業績は会社の計画どおりに進捗しているのでしょうか。／業績予想は修正しないのでしょうか。**

A2： 第3四半期までの業績については、当初想定したもののから大きなギャップは生じていません。2024年3月期通期の連結経営成績は概ね当初予想どおりと見込んでおり、昨年5月11日に公表した2023年3月期決算短信に記載いたしました2024年3月期の連結業績予想に変更はありません。

---

**Q3 : 親会社株主に帰属する当期純利益で見ると、例年、第1四半期にあたる4-6月期の3か月間の利益が大きく、第2四半期にあたる7-9月期以降は大きな利益は出ていません。季節的な要因が影響しているのでしょうか。**

A3 : 季節的な要因が影響しています。現在の当社の親会社株主に帰属する当期純利益を事業セグメント別に見ると、損害保険事業の貢献度が最大となっています。損害保険事業の保有契約の大部分はダイレクト型の自動車保険ですが、自動車保険は、台風・大雨、雹（ひょう）、大雪などの自然災害があると保険金支払いが増加して利益が減少します。わが国では、当社の第1四半期にあたる4-6月期には自然災害が少ないのですが、7-9月期以降は自然災害が増えますので、当社の7-9月期以降の業績は、4-6月期と比べて利益が少ないか赤字となる傾向があります。

---

**Q4 : 損害保険事業は大きな自然災害があると保険金支払いが増加するというのですが、もし、当期の業績が大きな自然災害の影響を受けていれば教えてください。**

A4 : 今年は夏から秋にかけて、関東・九州を始めとする広範囲で雹（ひょう）による被害が発生しました。雹が車に当たると、ボンネットがへこんだり窓ガラスが割れたりします。これらの損害は自動車保険に車両保険を付けていれば補償対象となりますので、ダイレクト型の自動車保険を主力商品とする当社の損害保険事業では、例年よりも支払保険金が増加して当期間の利益を下押ししました。

---

**Q5 : 昨年公表された中期経営計画に ROE の目標があれば教えてください。**

A5 : 当社の中期経営計画は ROE の数値目標を設けていませんが、現在の発行済株式数のまま、計画期間最終年度の利益目標を達成した場合には、計画上の ROE は 8%前後となります。

保険業を営む以上は財務健全性を安定的に確保する必要がありますので、他の業種の会社と比べると自己資本が大きくなりますが、ROE の計算式の分子にあたる利益の水準を高めていくことで、ROE も高められればと考えています。当社はまだ成長の途上にありますので、引き続き事業規模を大きくすることで利益の金額を大きくしてまいり所存ですが、それと同時に事業の収益性についても改善の余地を探ってまいります。

---

**Q6 : 昨今の市場金利の上昇は、御社の企業価値にプラスに働くのでしょうか。それとも、マイナスに働くのでしょうか。**

A6 : 国内大手保険会社と同様で、当社グループも確定利付債を中核としたポートフォリオで資産運用を行っています。債券運用においては、市場金利の上昇は資産価格の下落要因ですので、市場金利の上昇は、短期的にはマイナスの影響があります。他方、長期的にはプラスの要素があると考えています。これまでのような異常な低金利の状態から抜け出し、市場金利が正常化することで、資産運用利益を見込みやすくなるためです。

---

**Q7 : SBIインシュアランスグループの保険の保有契約件数と事業別、商品グループ別の構成比を教えてください。**

A7 : 本年9月末の時点で当社グループ事業会社8社の保有契約件数合計は、前年同月末比で7.1%の増加となる273万件でした。事業別の構成比は、損害保険事業が約46%、生命保険事業が約17%、少額短期保険事業が約37%でした。

これを商品グループ別に分けると、(1)ダイレクト型の自動車保険が全保有契約件数の4割強、(2)賃貸物件向けの家財保険や銀行などの金融機関で取り扱う火災保険の商品グループが3割弱であり、この2つの商品グループで全体の7割弱を占めています。

残る3割強の内訳は、(3)団体信用生命保険（以下、「団信」）が約1割、(4)個人向けの死亡・医療・がん保険などの商品グループが約1割、(5)その他が約1割です。

対面募集・非対面募集の区分で分けると、全保有契約件数の半分以上が非対面募集の契約となっています。

---

最後までご覧いただきまして、ありがとうございました。

SBIインシュアランスグループ株式会社 IR・広報部 03-6229-0881